

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No.105

2011年11月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



自然に還る！

親子農業体験講座

一般参加者 豊田

慶子

見事に育った畑の中で「はいポーズ」

早いもので、親子農業体験も後半戦。子供たちもいい具合に焼け、虫たちも夏を惜しむかのようにまだまだ沢山出てくる。前回植えたそばの芽が、蒔くには遅すぎると言われていたにも関わらず、二週間で約二十センチの芽になっていたのには驚いた。それと同時に、嬉しさもこみあげてきた。ん?!この感じ、子育てに似ている。

春先に、イモ類の苗を植えた頃、まだ芽がでないその上を駆け回っている子供たち。叱ったところで、耳を貸さない。その光景を見ていたスタッフの方が、「ダメッ!って言うと余計やるんだから、一回言ったら、ほっときやいいのよ」子育てのコツを教わった。

森の中に行くと、時間も忘れ、気持ちにゆとりができる。夏は、草むしりがメインのだが、暑さなかなひたすら汗を流しながら作業をしていると、雑草の力強さに逆にパワーをもらったり、木陰にいたり、夏の暑さも忘れてしまふ風が吹いてきて、気持ちが良い。

戦後、何も無い時代に育った私たちの親世代の方たちが今日のとても便利な世の中を創ってくれた。何不自由なく育った世代の私は親になり、自然災害などを通して、気付いたことは、便利さに甘えてはいけない。欲しいものがすぐに手に入る時代だからこそ何が大切なのかを考える。情報が溢れている中、どれを選べばよいのかの判断力をつけたい。毎度ながら、子どもたちが虫を追いかけ泥んこになって遊ぶこの環境に、そのヒントがたくさん転がっているように思う。

そして何より、野菜を育てることで、収穫するまでの作業の大変さや喜びと一緒に感じられる仲間ができたことが、嬉しい。人との繋がりは、世界が広がるし、自分には持っていないなかった考え方や物事の捉え方に、触られるから。

さて秋には、収穫祭やそば打ちが待っている。私たちが親子は、イモ掘りもそば打ちも初めての経験なので、今から楽しみだ。たくさん仲間とたくさんおしゃべりしながら季節を感じようと思う。近場でこのような体験ができるなんて、親子農業体験を立ち上げてくださったスタッフの方々に感謝!!ありがとうございます!これからも、よろしくお願ひします。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



街路樹

チーム街路樹20 受託事業報告

増田 勝彦

市緑化推進課との懇談会

(十月二十一日、市役所分庁舎2F会議室)

今年で三回目。冒頭、昨年は街路樹の剪定を中止したが、落ち葉に対する市民からの苦情が少なかつたこと、緑化推進課の山口課長が挨拶された。市としても、ロマン活動(落葉掻き)を注目して行きたい。ポランティアの皆様が落葉掻きをする姿に、市民の共感が得られていることに意味があると感謝された。今年も水曜日と土曜日の落ち葉掻きで、紅葉した後の落ち葉を清掃する。車道は市の清掃車によりエアで吸引、クリーンセンターに搬送されるが、放射能下、燃やさずに一定の場所に保管される。(秋の剪定について)

昨年同様、一部を除き、紅葉前の剪定をしないと云われて、ホツと安堵。一部とは倒木の危険がある樹木。例えば、ひたち野うしくのナンキンハゼ。今年台風で数本倒れたが、グレイチングとコンクリート下のため、根の張りが浅いのが原因。つくば市の「つくば新聞」によると、つくば市内の街路樹は、主に「3・8方式」と呼ばれる方法で植栽されているらしい。これは、街路樹を等間隔に植えるのではなく、8m間隔で二本ずつ植える。そして二本の間隔が3m。樹木を近接して植えることで、根が絡み合って強くなり、丈夫に育つという考え方である。ナンキンハゼは、毛虫が好んで葉っぱを食べるため、適度な剪定も必要。

近隣公園入口のアメリカガイヤフリボクの三本の木に、モンククロシヤチホコの蛾の幼虫がびっしりとついていた。丸裸になっている木を消毒してもらったが、今は、季節外れの新芽をひっそりと出し始めた。市中央図書館前のモミジバフウにも毛虫がたかり、葉脈が透き通って見えている。

上柏田三丁目のコブシは、冬季剪定の際には花芽を充分に残すよう、業者に指導を徹底すると言った。秋の剪定をしなくても、冬に強剪定で花芽を切ってしまうのは咲く花も咲くまい。

落葉樹は、紅葉した葉をすでに落とし始めている。台風と放射能の洗礼を受けた葉をさっぱり落として、新芽の春の衣替えに備えて欲しいと願う、この月は、木々にとっては大きな季節の変わり目である。

十一月、研修見学会の下見に行つて

(九月十六日、埼玉県比企郡ときがわ町)

十一月八日、九日の一泊ツアーは巨木の里ときがわ町と国営武蔵丘陵森林公園。宿泊は秩父の長瀬でメンバー十六名、緑化推進課から二名を迎えて、総勢十八名が市のバスで移動する。一日目の事前下見に、探検チーム四名が車で向かった先はときがわ町。巨木の里と言われ、今年NHKの首都圏情報でも放映されたが、牛久から百十km程の距離にある小さな町だ。町発行の巨木の里MAPを片手に、対象巨木十八本から、リンボク、大イチョウ、児持杉、多羅葉樹、大カヤを見学先に選んだ。リンボクはバラ科の常緑広葉高木で巨木ではないが、関東以西、主に関西の暖地に自生している。大イチョウは、黄葉を見られる期待大。児持杉は男杉(幹回り九・三五m)と女杉(七・一五m)が合体して樹高四十m、



緑化推進課懇談会 増田 11.10.21

推定樹齡
九百年、
周囲の樹
木に遮ら
れて上部
は見えな
いが、な
んとも美
しい木肌
でしたか



県指定文化財大カヤ
増田11.9.16

りと根を大地に張っていた。児持杉からだらだら坂を上り、左に1mあるかないかの細い急坂、小岩の道(寛政)と三分、大カヤ(写真)が突如目の前に...。幹回り7mの枝を大きく広げたカヤで、数百年間孤独で佇んできた生命力は、畏敬の念と共に、その姿に圧倒された。最後の多羅葉樹は、国宝指定で太い幹の中は空洞。パイプで補強されていた。

二日目の見学先は、国営武蔵丘陵森林公園(都市緑化植物園)園内は紅・黄葉樹園、公園・庭園樹園、街路樹園等にゾーニングされていて、見学者に優しい設計となっている。カエデ園は内外二十種の力エデがあり紅葉もそろそろ。見学前に園長から約1時間、武蔵丘陵森林公園の「樹木管理の方法について」を特別受講する。「注・カタカナ表記以外の樹木名は、巨木の里MAPに準拠」

平成二十三年度

樹名板設置維持管理業務委託について

市内の樹名板も、取付け樹木がすでに六百五十本を超えた。今年は、新しい公園に新規契約分の百本を加える。

チーム街路樹20はメンバー間の交流を柱として、「和気あいあいと気楽に楽しく」をモットーに、今後も活動を進めていきたい。



あやめ受託事業報告

有泉 吉昌

アヤメ園に誘われて

秋も深まり、朝夕には冬の訪れを感じさせる季節となりましたが、私の「アヤメ園」との関わりは連日真夏日の続く猛暑さなかの七月下旬でした。それまで「アヤメ園」が三日月橋の所にあることは、三日月橋生涯学習センターに講演会や地域活動行事等に行っていたので知っていました。この付近は「さくら」の名所であり、「さくら」の花を見に行くことはありましたが、「アヤメ」が咲いているところを見たこともありませんでした。

三年前に輪番制の自治会役員になって以来、なりゆきで地域活動に足を踏み入れてしまい、一緒に地域活動をしている「うしく里山の会」の幹部の方が腰を痛めてある活動に参加できない、なれど「アヤメ園」の作業は今が大切な時期で作業を休めないとの話を聞き、その方の助っ人として一日か二日程度の軽い気持ちで参加したのが始まりです。

夏季だけの涼しい内の作業として朝六時三十分「アヤメ園」集合、長靴、ゴム手袋、汚れてもよい服装、暑さ対策を万全にとの連絡をいただき、いざ出陣。

作業内容は開花三年目のアヤメ株(旧株)の掘り起しと株分け、そして株分けした株を植え付けるための畝作りです。これがすべてスコップ、鍬、による手作業。

先輩たちは手際よく、それぞれの手慣れた道具を手作業開始、私は先輩たちの作業を見ながらスコップを握り、アヤメの株を傷めないように慎重に株の掘り起しを開始するも早朝といえども真夏の時期です、十分もせぬうちに全身から汗がふきだし、五分後の休憩には落ちた池から上がったように全身が濡れ状態でした。

一〇時三十分までの間に三回の十分休憩があり、その間に労わりのことばと、この作業はつらいですがよるこびはアヤメが開花して見に来てくれた方々から、今年も「よく咲きましたね」との言葉だけで

す。はたまた今が一年で一番つらい作業で、この時期の作業経験をされて辞める人が一番多いです等のお誘いをいただきました。

動植物を育てることは嫌いではないがほとんど知識のない、猫の額ほどの自宅の庭の草取りもあまりしない私がどうして参加を決意したのか、それは「うしく里山の会」の目的が「人と自然との共生」「自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」とあり、作業に当たってはその日の作業内容と目標のみで誰が何をするかなど細かい指示が無くとも、各自の体調に合わせての作業分担が自然にできている諸先輩方の人柄、チームワークの良さに魅かれたものです。

また、十三人(当時、十月現在は私を入れて十六名)の先輩方の話は、それぞれの現役を引かれたいわば異業種交流会ごときであり、その見識は動植物のことは勿論、政治、経済、芸能諸事にわたり博学であり、その中味は、経験、体感によるものであり自我ではなく個性として会話がなされる楽しい休憩時間と、新人歓迎会、株分け終了式等々、年に何回あるのかはまだ分かりませが夜の研修・反省会(会費制)です。

七月、九月の酷暑、重労働の過酷な株掘り起し、畝作り、植え付けも終わり何とか「アヤメ園」の一員になれたかなと自負しております。

しかし、雑草刈り等まだまだ未経験の作業があり気を引締めて来年のアヤメ開花ため、今年も「よく咲きましたね」との言葉を掛けていただけよう頑張りたいと思っております。



株分けに奮闘する筆者
坂 11.9.6



維木林応援隊 郡司 忠男

今年の維木林応援活動に参加して

八月二十八日(日)晴

今日は一般公開の日なのでお客さんをお迎えしての行事となった。八時三十分までに会員は出てくるようにいわれたので、七輪とナベを持参で行ったらもう草刈が始まっていた。

私も急いで七輪の火入れや焚火の火起こしを担当した。アイの草木染ではアイをミキサーで細かくして、ナベで煮出してその汁で布を染める。草木染めではビワの葉・アカネ・ヨモギ・ススキ・青シソ・ワラビ・サクラ・クワ・ハーブのルウ・マリーゴールドなどがあつまった。私は最後に誰も使わなくなつたアカネ汁で、タオルを染めてみたら美しい朝焼けの空の色に染まった。その後妻のお気に入りの品となった。

昼食はソーメン流し実施。森で採ってきたモウソウ竹で、手製の装置を作り樋の上からソーメン・ソバを流した。たまに遊びでナシ・ミニトマトも流した。四十八人前のソーメンだったが空腹の総勢三十二人の前にはひとたまりもなく、アツという間に食い尽くされてしまった。薬味のユズミソは空のビンだけが置いてあり、あとの人の分はなかった。山ほど作った青シソ・ネギの薬味も後から行った人は食べられませんでした。たとえてみると、死体に集まったカラスの群のようである。

九月八日(日)曇後雨
第二なのでムジナで草刈。三十分遅れて行ったらもう終わってしまった。

遠くでカミナリが鳴り出して黒い雲も出てきて、いかに雨が降りそうになったので、早目のお昼となった。いつもの具沢山味噌汁は豆入りワントンとトウフ・凍みトウフ・ニンジン・大根・ネギ・ゴボウ・カイワレ入りだ。それから薄く切ったトウガン

は焦げ目が付くまで炒めてオカカ、ネギでいただく。ナス・ゴーヤ・インゲン・ピーマンの味噌炒め。主食は水でしめたウドンで、薬味にはミョウガ・オカカ・ネギ・シソの実があった。

九月二十五日(日)晴

炭屋前集合。梅林の草刈作業。若い新人のパワーできれいに仕上がりました。お疲れさまでした。私はいつもの火の当番をしながら焼きナスを手伝った。かなり焦げたころ、いきなり爆発したのでビックリした。Hさんが皮をむいて料理してくれた。シヨウガ醤油でいただいた。トウガンのシソ味噌焼/ピーマン・ゴーヤ炒め/ゴボウ・ゴーヤ炒め/カボチャ・シイタケ・ジャガイモ。ネギ・ウド

ンの入った具沢山味噌汁。その他手作りパン。もう腹いっぱいです。
十月九日(日)晴

ムジナで竹切り。
いくらか切ってもまだ足りない。
だまだ足りない。
伐り放題である。



里山自然観察隊

平塚 芳雄

十月度モニタリング1000里地調査を実施

去る十月八日(土)、定例のモニタリング里地調査を実施しました。参加者は四名。内一名は観察隊メンバー外の一般参加のTさん。彼は九月に実施した植物観察会にも参加してくれた植物に関する知識



いつもおいしい食べ物を作ってくれる火の神様に感謝

がある若者。仕事をもっている若い人の参加は時々あるのですが、なかなか仕事との両立が難しく参加が続かないのが現実。今回の調査では知識を活かし植物の同定に力を貸して貰いました。又、今回の調査にはシダ植物に詳しいAさんが参加できず困っていました。Aさんが事前に個別に調査してくれていて大変助かりました。

実施日当日の天気は晴れ、気温も暑からず寒からまずまずの調査日和。午前八時三十分過ぎ調査を開始、所定のコースを周りました。九月二十一日の台風の影響ですが、九月末頃調査コースを通ったとき竹林や牛久城址、得月院裏の農道でかなり太い枝や竹が倒れ通行の障害になっていましたが、ほぼ片づけられ調査に支障はありませんでした。ただ、草木の全体的な景観としては葉が散ったり傷んだりしている様子が感じられました。前回調査時、見事に作られていたカラスウリの緑のカーテンは強風のためか、つるや葉が枯れみすばらしくなっていました。でも残った縦縞のカラスウリの実には緑からオレンジ色に変わりつつありました。

調査コースの多くは車も通る舗装道路ですが、牛久城址内、城中街道(竹林内・水神塚下)は土の道で一部落葉が薄く積もった山道です。その様な山道で適度に日当たりの良い所では小さな背丈の雑草が何種も見られます。スズメノカタビラ、トキワハゼ、キクリグサ、コニシキソウなど人の踏みつけに耐え姿勢を低くし小さくなつて生育しています。環境に応じた生き方をしているのでしよう。又、強力に除草されていた道路際の斜面にも夏の盛り時の勢いはありませんが草が少しづつ復活してきていました。

今年最後のセミの声になるのか数は多くありませんがゴトゴトゴイシの声が名残り惜しげに牛久城址や稲荷神社近くの林で聞こえ、日差しの強さや風の気配に季節の変わり目を感じる調査日でした。

今回、草本延べ五百種を記録し、午後一時二十分に駐車場に帰着しました。

今回は知識ある一般参加者の参加があり、シダ植物についてはAさんが事前に調査してくれ

ていたので、なんとかレベルを落とさず実施できましたが、調査所要時間の長さで植物の知識あるメンバーの参加が少ないのが課題です。



調査コースの土手に咲く彼岸花群

巨木リサーチ2事業報告 石川 満夫

第一回城中コース巨木ガイドの実施

本年度の第一回「巨木ガイド（牛久市の樹木探訪会）」は、十月二日（日）城中コース、得月院 城
中街道 水神塚 牛久城跡 城中貝塚で実施しまし
た。私は主に文化財の説明を担当しました。
朝から秋晴れの中での活動となりました。参加者
は、一般公募者二十名・うしく里山の会々員五名・
市役所から二名の総勢二十七名です。

八時三十分過ぎ市役所を出発、最初の目的地の得
月院前駐車場に到着しました。ガイドの開始に先立
ち、巨木リサーチのこれまでの活動経緯と成果物
についての紹介、会員の自己紹介をしました
ガイドの始まりです。まず、得月院駐車場の樹木に

ついで得月院の境内へ移動した。まず、市指定
の文化財が四体あることから始まり、四体の紹介
です。昭和五十八年五月六日指定の五輪塔とカヤ
の大木および平成二十年九月二十六日指定の閻魔
大王坐像と奪衣婆坐像です。山門を入ってすぐ左
側のやしろの中に二体の坐像が鎮座しています。
閻魔大王は江戸中期の寄木造り、像高一〇三cmで
悪を怒り懲らしめる。奪衣婆は像高五六cm、閻魔
の妹で三途の川で亡者の衣をはぐなどの話をしま
した。

本堂に小川芋銭筆の額「得月禅院」を奉納した
ことと、この寺は小川家の菩提寺であることを紹
介しました。さらに五輪塔の前まで進みました。
この寺を開基した牛久城主由良国繁の母妙印尼の
墓碑で、高さは一一六、五cmです。五輪は上から、
空輪・風輪・火
輪・水輪・地輪
を説明しました。
次は市指定天然
記念物のカヤ。
果実がたくさん
足下に落ちてお
り、皆様、手に
とり楽しんでい
ました。

小川芋銭が描
いた「樹下石人
談」の図を示し



市指定文化財の五輪塔を
説明する著者 戸塚11.10.2

て紹介、カヤとシイの大木が描かれており、現在シ
イは切り株となつています。なお境内の樹木の紹介
もしました。チャンチンは中国からの渡来種で、春
にきれいな紅色の若葉を出します。他にイチヨウ、
エノキ、シキミ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ヤブ
ツバキ、シカクダケなどが生育しています。
皆様、それぞれの樹木をながめながら、これからの
成長を口々に期待して行きました。
得月院のガイドを終了し、トイレ休憩の後、城中
古道へとガイドは続いて行きました。

運営委員会だより

根古屋川うなぎ稚魚放流行われる

十月十五日（土）近隣の小学生親子約六十人が参
加して、根古屋川でうなぎの稚魚の放流が行われま
した。うしく里山の会でも、何回か根古屋川の堤防
の草刈りに参加して、牛久沼を中心に環境保全を行
いました。

当日はうなぎ稚魚の放流後、うしく里山の会員に
よって、牛久城址を中心に歴史を訪ねる案内を計画
していましたが、案内開始後まもなく風雨が激しく
なり、やむなく行動
を切り上げる状態に
なりました。

その後、参加者全
員で三日月橋生涯学
習センターに立ち寄
り、関係者によって
つくられた豚汁に舌
ずつみを打ち解散し
ました。



うなぎの稚魚を
放流するこども達

エコフェスタに参加して

十月二十三日(日)牛久運動公園にて「うしくみらいエコフェスタ」が開催されました。牛久自然観察の森では、丸太タワーの積上げへの挑戦コーナー、うしく里山の会では、初めてバザーに参加しました。会員の皆さんからは、バザーへの商品のご提供にご協力いただき、お陰さまで約二十万円の売上げをあげることができました。この売上金はうしく里山の会の運営資金にさせていただきます。(佐藤輝雄)



第五回目

理事 雨宮 廣之

転勤で牛久に引越して来た事から始まります。今から十年と少し前ですが、妻が牛久市の公報で、観察の森で「ツネさんの畑塾」の参加者を募集しているのを見つけました。

畑仕事は、妻も私もやった事が有りませんでした。が、収穫物に引かれた妻の運転手役で、無理矢理参加することとなりました。

まず場所も知らず、文化街道をメケ街道と読んでいた程で、畑も道具の名前からノートに書いて覚えてた事を思い出します。

当時の畑塾はとっても楽しく、仲良くまとまっていた事とあの時の参加者とは今でもお付き合いをしています。



楽しい人達と知り合いになりました。

当時は「雑木林の会」として何やら楽しそうに活動している人達と話をしている内に手伝う様になり、いつのまにか、一緒に炭を焼いていました。確かに炭窯に屋根を掛けたのが最初の仕事と記憶しています。

畑塾に参加していた時に、観察の森友の会を作る事となり、当時のレンジャーの勧めで、畑塾から私が参加したのが、今の「うしく里山の会」との関係の始まりとなります。友の会からいまの里山の会への詳細は、前回までに書かれていますので省きますが、畑塾は終了し、雑木林の会、里山応援隊、雑木林応援隊と名前を変えて今に至っています。

でいて、牛久での人の繋がり基本になっています。

畑塾は観察舎前の畑で活動していましたが、帰る途中で立ち寄りていたのが炭小屋で、そこでお昼のお弁当を使うのが習慣となり、良く炭屋で活動している



ジャガイモの収穫風景
近隣農家の方と同じで、今年の出来は、上々です。
男爵とメリークイーンの2種類を作っています。
今年初めての**収穫祭**。
今日のメインデッシュです。

トウモロコシの土寄せをしています。
観察の森の畑ですので、農薬はいっさい使っていません。

去年は、大分虫にやられました。
今年は、竹酢液をまいて、少しでも虫から守ろうと頑張っています。
でも、虫が食べられるなら、人にもやさしいはずですよ。



春菊の収穫です。
春菊は、3本に枝分かれたり、真ん中だけを摘み取ります。
左右の葉は、又大きくなって春の味覚を、長〜く、楽しめませう。
取れたては、やわらかくってとっても、おいしい・・・



この原稿を依頼された事で当時の資料を引っ張り出し、懐かしい写真を楽しむことが出来ました。畑塾の活動を記録に残そうとして、「森の畑便り」を作りましたが、この森の畑・・・の名前は、今の応援隊の畑で参加募集した時に無意識に使っている事が改めて分かりました。(初回号を添付します。作業風景が記録してあります)

先日の「藍染め教室」に、初めて参加して頂いた方も、以前畑塾で一緒だった人で、個人的に畑作業は続けているとの事、やはり好きな事は変わらないですね。

東京生まれの妻も、今ではもんべに地下足袋を履いて、軽トラに乗って畑に出かけています。あの時の転勤は、絶対正解だったと、今では思っています。



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」

では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。



十一月の活動日時

第一金曜日が祝日の振替休園のため、第二金曜日と第三日曜日の活動になります。

十一日(金) 午前九時～十一時半

二十日(日) 午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴 軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当:石神



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネーター 齊藤 孝

第三回除染作業実施のお知らせ

牛久自然観察の森園内における、会員有志による除染作業は、これまで、九月「タヌキの林からコジュケイの林までの園路(土)」、十月「コジュケイの林内園路(土)」の表土剥ぎ取り(土のう詰め)を実施しました。作業の実施後は地表面での空間線量が概ね牛久市の基準値を下回る成果も見られています。十一月は「カッパ沼橋付近」にて同様の作業を実施したいと思えます。会員有志の皆様のご協力をお待ちしております。

実施予定日:平成二十三年十一月二十三日(祝)

午前九時～正午(雨天中止)

作業内容 : 除染作業(落ち葉清掃・土壌剥ぎ)

持ち物 : 布手袋(軍手等)、長靴、ゴム手袋

飲み物 服装は長袖長ズボン

土のう袋等作業道具は森で準備

集合場所 : 当日「十字路」集合(予約不要)



身近な樹木 No.8 ガマズミ

スイカズラ科ガマズミ属の落葉低木で、別名アカゲガマズミ。福島県浜通りでは、ヨツズミと呼ばれている。北海道西南部、本州、四国、九州に分布し、山地や丘陵地の明るい林や草原に生える。牛久市内では斜面林の下部や林縁に自生する。高さは三～五mになる。葉は対生し、長さ一～三cmの葉柄がある。葉身は長さ五～十四m、幅三～十三cmの倒卵形あるいは卵形、または円形で、先端は短鋭尖頭、基部は広くさび形ないし円形、ときに浅心形となる。葉縁には低く粗い鋸歯、あるいは不整な鋸歯がある。葉の表は濃緑色で裏は淡白緑色で細かい腺点がある。表裏ともに毛があり、とくに裏の脈腋に集まる。花期は初夏の五～六月で、短い柄の先に一對の葉とともに散房花序を出し、白い小さな花を密につけるため、多くの虫が集まる。果実は九～十月に写真のように赤く熟し、球形でよく目立つ。



ガマズミの果実

渡辺 04.10.23

果実はあまずっぱく、果実酒にするときれいな深紅色になる。果実の色は昔から天然の着色料にも利用された。また良質の天然クエン酸を含むリノゴ酸が多く、健胃疲労回復に珍重された。枝は柔軟性があり、薪を束ねるヒモがわりに使われた。さらに道具類、特に鎌の柄(エ)や雪国ではカンジキを作る材料にもされた。樹皮は鎮静剤にもなり万能な植物といえる。

(松本頼王)

2011年 11月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1 森の畑 9:30畑	2 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき	3 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	4 (休園日)	5 親子農業体験講座 9:00畑 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき
6 巨木リサーチ2(特) 8:30市ホランテアC	7 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P チーム 街路樹20(受) 樹名板換収 13:30市ホランテアC	8 森の畑 9:30畑 チーム 街路樹20(受) ときがわ町研修会 7:30市ホランテアC	9 チーム 街路樹20(受) ときがわ町研修会 17時(市役所到着)	10 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P (会報等原稿 不 切)	11 里山保全ホランテア 9:00NC	12 里山自然観察隊 (植物観察会) 9:00森P チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき 親子農業体験講座 9:00畑
13 雑木林応援隊 9:00ムジナ	14 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 森の畑 9:30畑 里山自然観察隊 (モニタリング 里地調査) 8:30得月院P チーム 街路樹20(受) 8:30樹木・巡回管理	16 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき	17 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18 自然観察出前講座 第一幼稚園	19 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき
20 運営委員会9:00NC 里山保全ホランテア 13:00NC	21 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22 森の畑 9:30畑	23 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき 除染活動 9:00NC	24 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	25	26 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 親子農業体験講座 9:00観察舎 チーム 街路樹20(受) 13:00市ホランテアC (落葉かき、交流会)
27 雑木林応援隊 9:00炭屋 会報発送 13:00NC	28 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 自然観察出前講座 第一幼稚園	29 森の畑 9:30畑	30 チーム 街路樹20(受) 9:00図書館・落葉かき			

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄をご確認ください。

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場の畑
コジョケイ: 牛久自然観察の森コジョケイの林
観察舎: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

もう十一月。会報を担当していると、一年の過ぎるのが早い。先日は郵便局から年賀状の予約のお知らせがきた。スーパーなどでも年賀状の印刷の広告が目立つ。

節は初冬で立冬の日があり、陰暦十一月は霜月ともいわれて、冬もすっかり深まって霜の降りる季節である。この編集後記を書いていたら今日(十月二十六日)近畿地方・東京で木枯らし一号のニュースがあった。なんとまあ暑さが先日までであったとは信じられないこの頃である。

牛久自然観察の森で植生管理ボランティアに参加し作業をしていたら、衣服に「キンミズヒキ」の種がくっついた。種をみるとトゲトゲの先がカギのように曲がっている。晩秋の今の季節はいろいろな植物の種が熟した姿を見せてくれる。動物や人間の衣服にくっついて移動する植物の種。比較的大きなものに「オナモミ」の種。良く「ひつつきむし」と呼ばれたりして、衣類などに利用するマジックテープの原点でもある。

オナモミはキク科オナモミ属で、仲間にはオナモミ・オオオナモミ・イガオナモミがある。オナモミは日本で見られる唯一の在来種と言われるが、古い時代に大陸から入ってきたようである。最近はおオオナモミやイガオナモミが多くなりオナモミはあまり見られなくなったようだ。オナモミは漢方薬にもなり、葉を揉んでつけると虫さされに効くということからオナモミ(生揉み)とつけられたとか。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2011年12月号の発送は11月27日(日)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いたします。